

# 支える側が支えられるとき

～認知症の母が教えてくれたこと～

「眼張る」

がんばるとは

もともと「眼張る」と書くらしい  
目を大きく見開いて見据えること

言葉のない母の傍らに  
ただ何もしないで黙って座り  
見開いた眼でしっかりと母を見つめる  
見つめなければ分からない  
かすかな母の動きがある  
眼張らなければ聞こえてこない  
小さな母のうなり声がある  
言葉にならないむき出しの母の心

「眼張る」から引用

感じることで、はじめてわかることがある。

詩 × 福祉

コラボレーション  
COLLABORATION



KONOSUKE FUJIKAWA

## 詩人 藤川幸之助

詩人・児童文学作家。写真家。  
日本児童文学者協会会員。  
1962年、熊本県生まれ。  
小学校の教師を経て、認知症の母親の  
介護の経験をもとに、命や認知症を題  
材にした作品を作り続けている。また、  
認知症への理解を深めるため全国各  
地で講演活動を行っている。これまで  
の講演回数は500回を超える。  
著書に最新刊:エッセイ集「母はもう春  
を理解できない」(harunosora)、自選  
詩集「支える側が支えられ生かされて  
いく」(致知出版)などがある。

日時：令和6年3月16日(土)14時～17時

会場：群馬建設会館2階 ホール

参加費無料

## 朗読 藤川幸之助

## Talk Session

親子の関係は、歳を重ねても変わることはない。  
認知症という病にかかり、介護する、介護される関  
係になったとしても変わることはないと思うが、  
介護する側が迷うことがあるのではないだろう  
か。ふと母の手が頭にふれ、目から零れ落ちる涙  
をぬぐってくれる母親が目の前にいる。「そばに  
いてくれること」で救われるのは誰か? («驚田清  
一「く弱さ」のちから」より)  
本講演会では「詩」がもつ、対話の世界をお届け  
します。



株式会社harunosora  
代表取締役  
尾崎 純郎



NPO法人風の詩  
理事長  
永島 徹

1992年より専門出版社にて、認知  
症や介護、福祉、看護、医療、老年心  
理学などの分野の編集者として活躍  
。これまでに手がけた書籍等は数百  
冊にのぼる。2012年より、NPO法  
人認知症ラボ理事長として、  
YouTubeチャンネル(認知症スタジ  
アム)の運営にも携わっている。

精神科ソーシャルワーカーとして精神  
障害回復者の社会復帰活動や高齢者  
に限定しない相談支援を実践。その  
後、地域性を踏まえ人々との「つな  
がり」を大切にしていこうと、地域福祉  
の拠点としてNPO法人「風の詩」を  
設立。現在は、日本社会事業大学学  
院にて研究も続けながら、「必察ソー  
シャルワーク」の実践を続けている。

写真で見る介護の風景から何を感じるだろう  
か。ケアに関わる人の感情にはどのような思い  
や揺らぎがあるのだろうか。母親を見つめる息  
子のまなざしから何を感じるだろうか。経験の違  
う3人の語りから、「支える力」を感じてほしい。

## 応募方法

下記URLまたは、QRコードよりお申込みください。  
<https://sites.google.com/view/rounenbyo/>  
【定員】150名  
※申込期日:3月8日(金)  
※先着順のため、定員になり次第締め切りとなります。  
【運営事務局】  
株式会社klar(クラール)  
TEL.027(260)9525/FAX.027(260)9322  
受付専用メールアドレス:klarconve@gmail.com



## 問い合わせ

公益財団法人老年病研究所  
前橋市地域包括支援センター西部 山田  
TEL.027(255)3100/fax027(254)3836  
mail:seibu@ronenbyo.or.jp  
主催 公益財団法人老年病研究所  
共催 老年病研究所附属病院認知症疾患医療センター  
群馬県地域医療介護総合確保基金充当